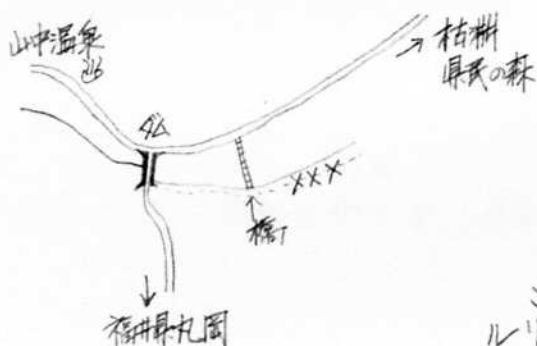


加賀地方における Zephyrus の新産地 No.2

吉村 久貴

1983年4月8日(土)、加賀地方最南部における Zephyrus の分布の空白を埋めるべく、新産地を求めて、加賀市・江沼郡山中町付近の調査を行ったので、その結果について報告する。

江沼郡山中町我谷 (標高約150m)



我谷ダム周辺でオオドリシジミを捕したところ、ダム湖右側の歩道にはえた小さなコナラより、簡単に5卵見つけた。

当日、既に孵化した孵化殻4卵、寄生卵5卵も見つけた。

この他、ダム周辺では、テングチョウ、ルリタテハ、ヒボシチョウ、スズボシヤマキチョウ(♀)の越冬個体を目撃し、新鮮なルリシジミ16も採集した。

江沼郡山中町刈安林道 (標高約500m)

刈安山山頂に至る車道を登っていくと、道沿いに多くのミズナラ、サクラナドガあり、環境が医王山の重山道路に非常に似ていた。

林道をかたがり登ったところのミズナラは既に芽が吹いていたが、ジョウザンミドリシジミ3孵化卵とミスノオオガシジミ2卵を採集した。ジョウザンミドリシジミは、孵化殻のついていた芽ごと採集して自宅で大きくなるのを待ったところ、芽が

ら初級幼虫がしっかりと現れた。

他に越冬したヒオドリシチョウ、ルリタテハを目撃した。また、刈安山の麓の登山道入口で、スジグロシロチョウと思われる個体も目撃した。

加賀市曾宇町～寺尾観音(標高約80m)



国道8号線を、曾宇町の方へ折れてしばらく行くと寺尾観音入口の看板ができる。寺尾観音に至る砂利道に少し入った所で、道沿いのコナラを捜したところ、オオドリシジミ4卵、2寄生卵、2孵化殻を見つけた。

加賀市は海岸に近く、標高も低いので、生見しているZephyrusの種も限られていると思われるが、更に奥へ進めば、ヤマゲタシジミ、アカシジミ Favonius などが期待できそうな環境だった。

その他、ヒオドリシチョウ、ルリタテハ、キョウチョウ、ルリシジミ

スジグロシロチョウを目撃した。また、たまたま飛来したギフチョウ1羽も採集した。

今回の調査で、県内の市町村区分におけるZephyrusの産地^(*)に、
新記録として

江沼郡山中町の オオドリシジミ、ジョウザンミドリシジミ
加賀市の オオドリシジミ が加った。

(*) 新 No.29 石川県産セファルス17種の分布について
百万石蝶研究会 (1982)

津幡町似生にてオオドリシジミ卵を採集

若村貴己・吉岡 泉

石川県のオオドリシジミについては、県内広範囲に分布すると考え



られているが、データは少ない。今回^{y1)y2)}河北郡津幡町瓜生において、本種の卵を採集したので報告する。

〒 石川県河北郡津幡町瓜生
1983年3月22日

材=ドリシジミ
2卵 コナラ 吉村貴己
5卵 コナラ 吉岡 象

卵は、瓜生部落より河合山に至る道路脇の高さ1.5m程度のガケに

生えた高さ50cm、太さ5~7mmぐらいのコナラの幼木より得られた。(標高約200m)

尚、今回の採卵行はオオドリシジミに収るを絞ったわけではなく、セフィラスの河北郡以北の新産地発見のためのものであり、河北郡津幡町河合谷付近、高松町方面にかけて調査したが、他種は得られなかった。

- y1) 翔 №5 Zephyrus 特集号 吉村 久貴 (1979)
- y2) 翔 №29 石川県産セフィラス17種の分布について 石万石蝶談会 (1982)

スギタニルシジミの怪

金耳 永二

～序～

まずは報告文を。

4月24日(日) 金沢市菊水町 天候 晴

ギフキョウ、ミヤマカラスアゲハ、スジグロシロキョウ、ツマキキョウ、ルシジミ、スギタニルシジミ 16、トラフシジミ、コツバメ、テングキョウ、レオドンキョウ、ルリタテハ。更に、野中さんの報告に基づき、(翔 №35) クロウメドキを調べてみたところ、藤村周辺のクロウメドキより、以下の結果を得た。

ミヤマカラスシジミ 寄生死卵 2, 既孵化卵 9, 未孵化卵 18,
一女幼虫 1, その他 1本よりウラゴマタラシジミ 既孵化卵 確認。

～その1～

当日の目的は、ミヤマカラスシジミの卵であった。全沢市内でミヤマカラスシジミを得たという野中さんの快挙に刺激され、はずかしながら、2番煎じをやってみようという思惑であった。

ダートで泥んこになった愛車カローラIIを菊水の集落趾に止め、見付けたクロウメモドキを片端から調べたが、2時間たっても何も見付からずガックリ。

気分転換しようとしてネットを取り出し、春の蝶を遡うことにした。神社跡で追飛中のゴツボメを2つキとめてネットインしたと思いきや、何とゴツボメの追飛の相構はスギタニルリだったのだ。

「何や、みんなとここでスギタニガとやるんか。いや、ちょっと待てよ。ひょっとしたらここには新しい記録かもしれない。よし、こうなったら発生地をつきとめよう。」と早速先を変え、涙ぐましいまでのトチノキ探しが始まった。

対岸にトチノキを見つけたら、パンツまでびっしょりになって川を渡り、山腹にありとみれば崖のほり、無にあると聞けば、道の果てるまで歩き(結局、これは山菜取りの人にたまたま採ったのだが)、南木のトチというトチを見て歩いたが、スギタニの又の字も出て来ない。

自分の経験によれば、スギタニルリシジミはトチの木の周辺で必ず何頭かキとめて見かけ、所によっては、乱舞が見られるのだが、一体これはビーチャーコッチャ。「ひょっとしたら、さっきのスギタニは、ただのルリやったのかいな。」と何度も三角紙をあけてみるけれど、やっぱりスギタニルリ。

もう4時間近くもトチノキを見て歩いているのに発生地を見つけられぬいらだたしさに、ひょいと近くにあったクロウメモドキに手をかけると、お水キあ。忘れかけていたミーカラちゃん(トチノキ)の卵があるではないか。

ということで、それから1時間程、ミーカラちゃん(トチノキ)の卵探しで気をまぎらわせたが、やっぱりくやしくてしようがない。

今日中にスギタニの発生地をつきとめなければ男じゃない、と自分言いかせ、再び草の根をかき分けんばかりのスギタニ捜索が始まったが、午後4時半、疲労と空腹とあほらしさで捜索は打ち切られた。

廢村のトチノキを、傾きかけた春の陽光がわびしく照らし、その根元には精魂つき果て、ガックリとうなだれた青年が独り.....。

しかし、不鬼議なことがある。再び経験によると、ふつう、スギタニルリが飛ぶ頃、その辺りのトチノキはちゃんと葉をつけているはずなのに、今日、見て歩いたものは全てまだ芽吹きが終わっていない。

全くきつねにつつまれた様お気持ちで、たった一頭のスギタニルリシジミを持ち帰ったのだった。

～その2～

翌4月25日。私が最も恐れていた出来事がおこったのです。大專お内科、外科、友フ科の臨床講義の時間に、私は金沢市日尾町の山道を歩いていたのです。アア～。

日尾町と聞いて何かを思い出す人は、まだ脳細胞が若いと思って下さい。この地は去る1979年に吉村氏が、スギタニルリの新産地として雑誌上に報告しています。(N215)

地図の上では菊水と遠くない(水葉山を隔てた隣の谷にあたる)ので、ひょつとしたら発生のパターンが似ているかもしれないと思った私は、両地を比較しに行ったのです。

吉村氏が報告したポイント付近にトチノキは見当たらず、夏に上流に何かうこし約30分(徒歩)、日尾の集落趾でいかにもスギタニのいそうなトチノ木を発見。

何とこの周辺のトチノキは、ほとんどすべて立派に葉をつけているではありませんか、大小のトチ(中には幹の太さ1m程の巨木もある)が連立する斜面を登りながら、ここにスギタニが発生しているのが、たゞ蝶屋をやめようと思った程の好産地でした。

----午後4時----

ここでもスギタニのスの字も見なかったのです。これぞと思い、ネットを振るとただのルリ。帰りの車の中で私は発狂寸前になってしまった。本当に蝶屋をやめようか、アア～。
菊水のこと、日尾のこと、どちらも一体どうなってるのでしょうか。誰か助けて下さい。トチノキ恐怖症に陥りそうです。

広島県^{水割}水分峡にてギフチョウを採集

吉岡 泉

昨年、松井氏とサンヨウアオイ採集に出かけ、おそらくギフチョウが生息するであろうと目をつけていた水分峡でついにギフチョウを採集した。

先日4月2日は、天気が良かったにもかかわらず、前日までの長雨のため採集できず、ほとんどネットを振ることはなかったが、4月6日に友人のH氏と再度挑戦し、1時間30分かけて、ようやく。

3頭採集できた。



金沢市のギフチョウの産地に北へると、はるかに個体数は少なく、採集地の条件としてもスミレ・カタクリの花は見当たらず、採集場所はごく限られた面積の所である。

従って、ポイントでひたすら飛んで来るのを待つしか方法はなく、1頭採っては30分程、ポイントとしていなければならぬ。

こうした状況でなくとも、全国的にはギフチョウは稀な種であり、短時間で数十頭も採れる金沢市等は別格である。

ただし、これは水分峡のポイントを見ての話であり、根気よく産地を捜せば、数は上がるのかもしれない。

尚、筆者の手元には、金沢市の標本がないので、比較することはできません。大きさと斑紋などについては、あらためて報告するつもりである。

採集データ

1983年4月6日(水)

広島県安芸郡府中町水分峡

ギフチョウ	3頭	(2頭完品, 1右後翅破損)
キタテハ	1ex (採)	2exo (目)
ルリタテハ	1ex (目)	ルリシジミ 1♀ (目)

高山市原山採集記

中西 重雄

1982年8月14～16日にかけてお盆休みを利用して、高平・中西両ファミリーで岐阜・長野方面へ採集旅行に出かけました。

あいにくの雨にたたられ、ほとんど採集ができず、帰りに嵯峨井氏からの情報により、高山市原山スキー場へゴマシジミを採集に立ち寄りました。

しかし、その日も雨が降ったり止んだりで最悪の天候でしたが、1時間程の晴間をぬって採集をしました。原山スキー場の駐車場に着くと、他にも阪車ナンバーの採集者3名も雨の晴れるのを、クルマの中で待っていました。雨が一時あがった様なので、高平氏とともに5人で、スキー場の草原へと飛び出しました。駐車場のすぐ前のなだらかな斜面には、一面、ススキやヤマハギ等がはえていて、ポツリ、ポツリとゴマシジミの食草であるワレモコブのかわいい小さな赤紫の花が咲いていました。しかし、その草原にはゴマシジミの姿はなく、最初に小さな薄茶色の蝶をネットしましたが、それはゴマシジミではなく、ムラサキシジミでした。雨のせいか、ゴマシジミはその草原には、ほとんどいないので、山際の雑木を伐採したあとを捜してみることにしました。すると、一匹、二匹とゴマシジミが飛び出してきました。このゴマシジミのポイントは、山際の斜面のようです。

採集デー 1982. 7. 16 高山市原山スキー場
ゴマシジミ 90XS ムラサキシジミ 15

×スアカミドリシジミの採卵記録二題

松田 俊郎

その1 富山県五箇山

1982年10月3日、富山県五箇山にて、×スアカミドリシジミを採卵した。この日は、左川にヒサマツミドリが産しないものかと思ひ、川に沿って車を走らせ、ウラジロガシばかり見ていたのだが、やはり、ヒサマツの卵を発見することはできなかった。何本目かに見たウラジロガシのすぐそばに、枝のあるのに気付いて、もしやと思ひ、調べてみると、ついていたわけである。採卵数は5卵で、飼育の結果、2雄が羽化している。

その2 鶴来町獅々吼高原

1982年10月14日、鶴来町獅々吼高原にて、×スアカミドリシジミを採卵した。最近、獅々吼高原にアスレチックができて、子供達のよい遊び場となっているようだが、採卵したのは、このアスレチックのために作られたと思われる小道の枝の小木からであった。採卵数は4卵で、飼育の結果、1雄1雌が羽化している。

〈採集地案内・4〉 富山県東砺波郡平村

嵯峨井 淳郎

富山県を流れる庄川の上流(岐阜県白川村)は、ウスバサイシン食のギフチョウを産することで有名である。(西田慎也 1973*)
 同庄川流域の富山県側においても、多数ウスバサイシンの自生する箇所があり、ひょっとしたら、リネードルフィア・ラインをここに置き換える意義があるのではないかと、とばかりに、ヒメギフを採集した時代があった。



上松尾・小来栖においてウスバサイシンは比較的によく目につき、梨谷に至る旧国道沿いにおいても、けっこう見られ、ギフチョウも多産する。

特に旧国道沿いの南側斜面には、下部より湧いて来る様な感じで

ギフチョウが翔んで来る。

但し、新国道が完成していない以前、未舗装の砂ぼこりをあげていた時代に、ギフが飛んでいたがどうかは疑わしく、この箇所を耳を連ねて何回も手に汗を握った経験のある筆者には、考えられない現象である。

ギフの他には、スギタニルリ、コツバメ等も見られる。ここは北陸唯一の豪雪地帯なので、発生時期はその年により相当のズレを生じるが、おおむね4月下旬～5月上旬頃となる。

この地へ城端側より進入した場合、地獄谷～細尾峠の間で4月いっぱい交通遮断される事があるので注意が必要。(常時夜間通行止、降雨時も通行止めとなる)

ここでは他にクロウメモドキよりミヤマカラスシジミの採卵データ(橋場清 1979*)もあり興味のあるところ。石切場もあるところから、ベニモンカラスの生息の可否は?

国道156号線沿の下梨郡落外れで、ウスバシロチョウも得られる。ここでは比較的発生が早く、5月の連休に多数得られる。少し上流の小瀬のユースホステル近くでクロシジミの記録(嵯峨井均 1962 未発表*)があるが、小瀬峠迄の林道開発の影響で餌影もない。8月には、キベリタテハ、エルタテハ、クジクチョウ等のタテハ類を得た記録もあり、エゾ、シオウザンのゼフ類やルリボシカミキリも多数得られる。

- *1) 西田真也(1973) 高山市周辺のLuehdorfia 昆虫と自然 8(3):27-28
- *2) 橋場 清(1979) 嵐山県におけるミヤマカラスの採集例 とくりにち 43:11
- *3) 1962年7月23日、嵯峨井均が金沢付属高校生物クラブの一員として五箇山方面へ採集したときに2種得たもの。

【シリーズ案内 & 書評】

第6回 アニマ 83年3月号 (通巻12号 平凡社刊)

嵯峨井 淳郎

本書は、各種動物をあらゆる方向より探検し、夢幻の世界に導いてくれる良書であることは以前より知られている。筆者などは、書店の店頭で内容を千う千う見て時々購入しているが、当月号に「模倣式・冬芽区鑑」なる記事が掲載されている。冬場あちこちへセフィルス採集のかけめぐっている方(別にセフにこだわる必要はなくあらゆる分野の)冬芽の見方を本記事を参考にすれば、新知見が生まれること疑いなし。64頁には、前川文夫カンアオイ大先生の記事も載っているので興味のある方は参考にされたい。定価 ¥760。

《会員の動き・しやばの動き》

◆ 松井正人氏と若下泰子さんが3月3日石川厚生年金会館にて結婚式を挙げる。披露宴は誠に盛大で、笑いに顔紅くに及び仲人は自出度い酒に酔い、新郎は終始鼻の下が延びっぱなし、新婦一人が冷静かつ沈着な態度で、つかなく終了した。新郎新婦は同棲

厚生年金会館に宿泊し、翌日からの飛行機の長旅に備えるつれが、思いがけがい珍著が(珍著とは誰のことでレウカ?) 2人の部屋へ迷いこみ、視察まで酒盛りが続いたという。翌朝2人は眠片持こて金沢を突っ走ったが、やがて2人に抱かれ手と手を握りてツタを歩くことになった。

◆ 5月29日(日)、本会会長 井村正行氏
と中道厚子さんは、市内瀧川町の金沢
セントラルHotelにて結婚式を挙げた。

会員一同は、夕方3時の大団会にてレ
ッポでは NNEVやKH氏の後遣い三味線
かなと思っていたり、以外に早く話がまと
まりはんにスピード結婚であった。

ところで新婦の旧姓を知るのは、編
集人だけであろう。後祝賀報を打つ
のに苦労したのていろいろ調べたのだ。

ハネムーンは右垣あたりらしく、嫁さ
んを Hotel にほったらかして、他のムヤ
ヒに忙し採集に没頭したというエピソード

もあるらしく、これから嫁さんをもう一発
の若者着書者は、井村会長に続行。

しかも、蝶談会内別2組の新婦さん
が3人、何となく我がローレル組までも
がソワソワと落ちつきない。しかもめで
たし、めでたし。

◆ 同日、富山県早月の小又谷にてある
事件が発生し、翌日の朝日・読売・
北日本・富山県各新聞の3面を占
めにされた。詳報は、別の機会に
て行われる。(雄嶽井記)

目 次

加賀地方における Zephyrus の新産地 Ⅱの2	-----	吉村 久貴	1
津幡町瓜生にてオミドリシジミ類を採集	-----	吉村 貴己 吉岡 繁	2
又ギタニルシジミの怪	-----	金平 永二	3
富山県東砺波郡にてギフチョウを採集	-----	吉岡 繁	5
高山市原山採集記	-----	中西 重雄	6
メスマカミドリシジミの採集記録二題			
Ⅱの1 富山県五箇山 Ⅱの2 鶴来町獅吼高原	-----	松田 俊郎	7
<採集地案内・4> 富山県東砺波郡平村	-----	嵯峨井 淳郎	8
【シリーズ案内 & 書評】			
第6回 アニマ83年3月号(通巻121号 平凡社刊)	-----	嵯峨井 淳郎	9

翔 №41

1983年6月1日(水)発行

発行：金沢市大場町東 811-15 松井正人方・百万石蝶談会

校正・編集：吉村 久貴